

## 平成27年度標準採血法検討委員会報告

### Committee Report on the Standard Procedure for the Blood Collection in 2015

渡邊 卓 (JCCLS 標準採血法検討委員会委員長、杏林大学医学部教授)

Takashi Watanabe (Chairperson of JCCLS Committee on the Standard Procedure for the Blood Collection, Professor, Kyorin University School of Medicine)

大西 宏明 (JCCLS 標準採血法検討委員会委員、杏林大学医学部准教授)

Hiroaki Ohnishi (Member of JCCLS Committee on the Standard Procedure for the Blood Collection, Associate Professor, Kyorin University School of Medicine)

標準採血法検討委員会では、平成23年1月の標準採血法ガイドライン第2版(GP4-A2)発行後、関係各界からの反応を分析し、またその後には得られた採血法に関する新たな知見を取り入れ、今後のガイドラインの改訂の方向性を検討してきた。

#### 1. 標準採血法ガイドライン次期改訂版の発行時期について

前年度までの委員会での討議で、平成28年中に次期改訂を行う予定となっていた。しかしながら、改訂に向けて本文の精査を行ったところ、採血をめぐる種々の状況の変化(新たなエビデンスの蓄積、標準的採血手技の浸透、低リスクの採血器具の普及など)に鑑み、細かい部分も含め現状にそぐわない表現となっている部分が多々存在することが明らかとなった。そのため、予想よりも大幅な改訂になることが想定された。また、米国のCLSIのガイドラインも改訂途中であることから、できるかぎり最新の情報を入手しつつ、29年2月頃に次期改訂版を発行することを目標とした。そのため、委員会を2-3回程度年内に開催し、具体的な改訂作業を進めることとした。

#### 2. 次版のガイドラインの方針

次版のガイドラインでは、全体の構成は大筋で

現行の版を踏襲するが、真空管採血・注射器採血・翼状針採血の位置づけについて、採血の現場を取り巻く状況の変化や新たなエビデンスの蓄積に基づき、より詳細で現状に即した内容に改訂することとした。採血手技に関連する検査値の変動については、過去の研究結果を読者が容易に検索できるよう、文献情報を充実させることに主眼を置くこととした。

#### 3. ガイドラインの修正

現行のガイドラインに関してこれまでに関係各界や委員から出された疑問や提案について委員会で検討を行ってきた。これらのうち重要性が高く修正が必要とされたものについては、現在当該部分の修正案を作成中である。

#### 4. ガイドラインの増刷

徐々に看護学校や検査技師学校への普及が進み、27年度末で現行のガイドラインが残部300部程度となった。今後出版社と協議し、次版発行までの予想購買部数(1000部程度)を増刷する予定である。

以上